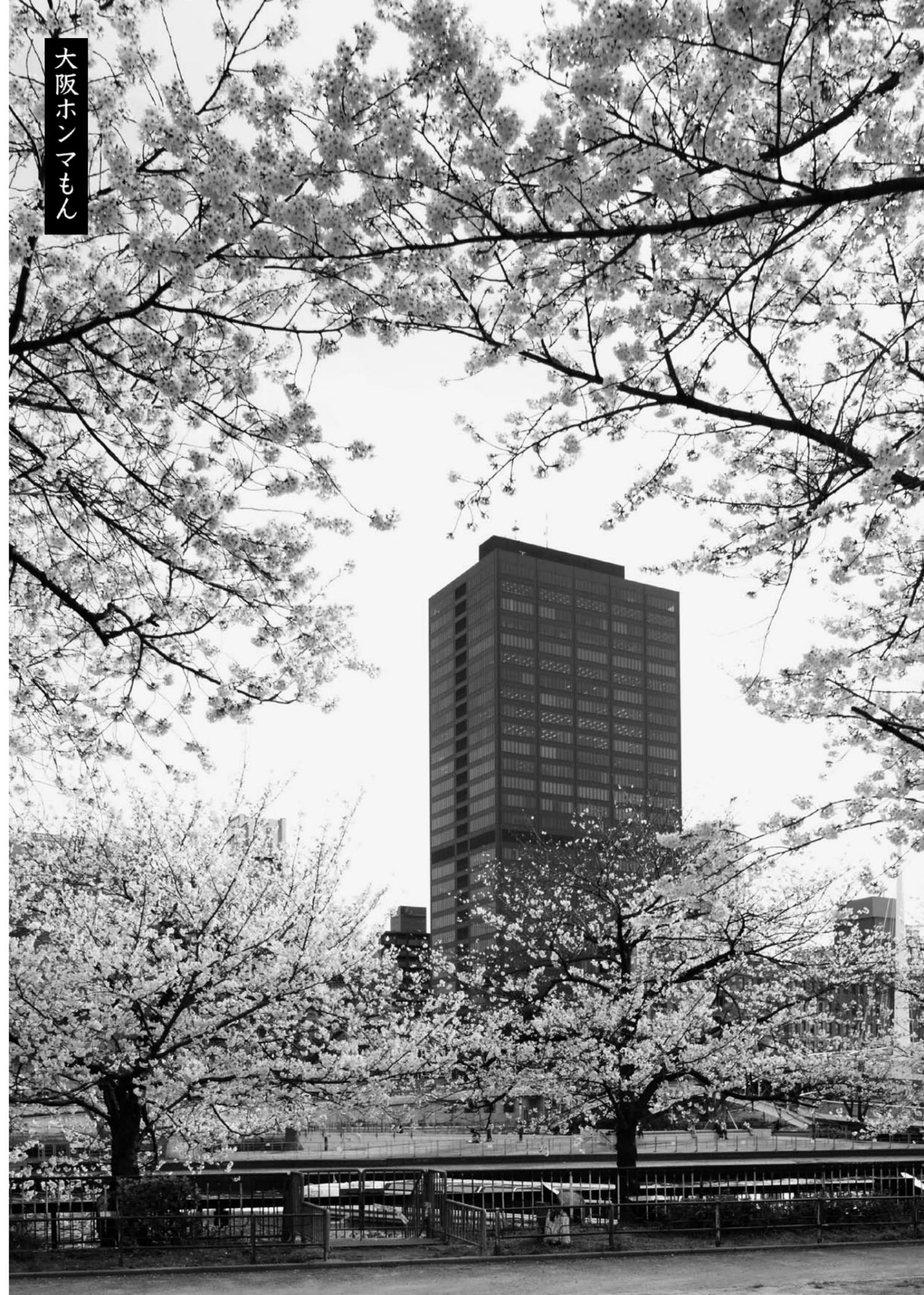




# 建築人

5

2013



〔自由・孤立・伝統の問題〕「加藤周」セ  
クシヨシ三」平凡社ライブラリー二〇〇〇年

加藤はこう分析した上で、仮に建築家が大胆な建築をデザインできたとしても、「隣の醜悪な広告を除くことはできない」から、「東京における建築家の自由は、また同時に建築家の孤立を意味している」とする。そして、そんな中で「建築家のとり得る態度」の二つは、「周囲を無視し、周囲とは関係なくそれ自身を主張してやまない堅固な

この建物も貸ビルだが、それでも、個性的な建築を白井に委ねる施主の存在を感じることが出来る。しかし、この建物がかまとうどこか孤独な表情には、加藤の指摘する建築的な戦略というレベルを超えて、日本の戦後の都市への白井の絶望がその背景にあるように思えてならない。というのも、ここには、かつてこの連載で紹介した長崎の親和銀行大波止支店（一九六三年）に感じられたような、静謐な物質性によって人間のための空

世界の最高のレベルだ」と。（中略）日本はやっばり遅れていると思いますよ。いろんな意味で。（中略）何とんでも近代建築の歴史が短い。幅と厚みがないもの。（中略）日本の建築家は、本当に素朴なところから、自分の中からものをやらんことにはいかん。（中略）歴史時間の長さ、大陸から孤絶したローカリティを克服して、西洋文化と同時代性でたかかうには小手先の技術だけではどうにもならない。もともとと地味な勉強が必要だ。その意味でぼくは西洋の歴史的な厚みに対しても、まだまだ謙虚にそれを師とし鏡とする気持ちを持つてはならないと思う。（座談会「NOAビルを語る」『日本デザイン年鑑』一九七五年）

ここには、戦後の日本が高度経済成長の中で見失ってしまったこと、すなわち、西洋の建築が持つ歴史的な時間の厚みに対する謙虚な姿勢の大切さが語られている。続く翌年の対談でも次の言葉が発せられる。

「もし日本でもいわゆる近代になって、西欧の建築の質にまで肉迫してゆこうという執念と、ほんとうの勉強があり、たとえ二世代か三世代でもそういう苦闘の持続があったなら、こうやすやすと近代建築不毛病に悩まされなかつたように思うのです。」「対談「石と日本建築」『Ina Report』一九七六年三月号）

この白井の苛立ちに、現在の私たちはどう向き合えば良いのだろうか。ノア・ビルは、今もなおその思いを語りかけている。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

## 記憶の建築 松隈 洋 ノア・ビル 1974年 寡黙な外観に託されたもの



神谷町交差点から見る全景



レンガ積の低層部

構造物をつくりだすこと」だとして、その典型例として、ノア・ビルを取り挙げ、次のように指摘したのである。

「長く眺めていると、周囲のガラタは消え、その赤い塔だけが、たとえばゴビの砂漠の堡壘の廃墟のように、ほとんど時間を超えて、屹立し、見るものに対する。（中略）白井晟一が果たそうとしたことは、日本の都会のカオスのなかに孤立した建築を、一つの大きな彫刻作品のように築くことであつた。」

間を築こうとする意志も、その前提となる都市への信頼も読み取ることはできないからだ。ノア・ビル竣工後の座談会の中で、白井は、「いちばん大切な内面的テーマは都市の顔でした。（中略）ここにつゞ道しるべを作つてやりたいな」と思つたと言いつつ、それが「苦渋の象徴」だとしている。そして、次のような思いを吐露していた。

「日本人はいまいい気になっていますよ。いまの日本の建築は、技術でもデザインでも

一九七四年は、建築家と都市の関係性が決定的に変容したターニング・ポイントの年だったといえるのかもしれない。これまで見てきたように、この年を境にして、村野藤吾や前川國男など、アトリエ派の建築家が、施主からの厚い信頼を得て、街角の表情を形づくり、都市への提案を含んだその企業のイメージを体現する本社ビルを設計できた時代は終わり、かわつて、不動産経営という発注形態の下で、高い収益性と合理性、そして大組織の技術力の集中を必要とする超高層の貸ビルへと、都市の建築の主軸が大きく転換し始めたのではないだろうか。このことは、都市の景観が、顔に見える個人の手を離れ、経済サイクルというより巨大な渦の中に巻き込まれて変貌していった軌跡とも重なる。そのような時代の中で、建築家は都市にどう立ち向かえば良いのか。そのことを別の形で象徴するのが、同じ一九七四年の東京に、白井晟一（一九〇五〜八三年）の設計によって竣工したノア・ビルである。

敷地は東京タワー近くの神谷町の交差点に位置する。交通量も多い喧騒としたこの場所に、白井は寡黙な建築を置いた。斬り仕上げるレンガを積んだ低層部と、開口部の少ないブロンズ製のメタリックな楕円形の高層部から構成された外観は、今も独特な存在感を醸し出している。白井は何を求めたのだろうか。評論家の加藤周（一九一九〜二〇〇八年）のエッセイに、東京の建築について触れた次のような文章がある。

「東京は原則として無秩序の都会である。（中略）もし註文者の経済的その他の条件が許しさえすれば、建築家のあらゆる冒険を可能にする。別の言葉でいえば、デザインのない都会は個別の建物の実験場である。」

池辺陽氏の立体最小限住宅 No.32 が大阪に現存しているのをご存知でしょうか。戦後の住宅問題への先駆的取り組みとして有名だが、多くは取り壊しにあい東京にはほとんど残っていないとのこと。そのような状況のなか「ぜひこの建物を登録有形文化財としてオリジナルなかたちで残したい」と熱く語る西澤先生に、池辺氏と施主の伊藤氏、さらには監理に関わられた西澤文隆氏らの交流の中でものづくりについてご紹介いただきました。

## 住吉の最小限住宅—池辺陽設計の音楽アトリエを巡って

### 西澤 英和

1951年大阪生まれ 1974年京都大学建築学科卒 1993年京都大学講師 2007年関西大学准教授 2010年関西大学教授  
専門 耐震工学・保存工学など。

過疎化で古民家が解体されるのは勿体無いと思っていたところ、ひょんなことで古民家を譲ってもらいました。それ以後、少しずつ民家に手をいれています。真先にエアコン・TVアンテナと電話を撤去し、水道もやめて井戸水にしました。昨年念願の囲炉裏と電気が完成したのでプロバンもやめました。少しずつですが、わが理想の文化文政の時代に近づいてきました。最近江戸・明治の民具探しにはまっています。



写真 1a 模型の外観

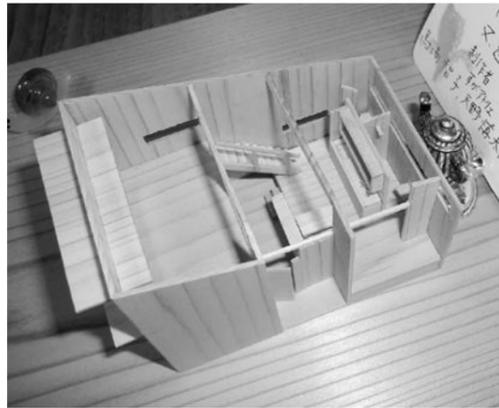
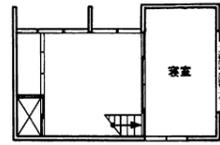
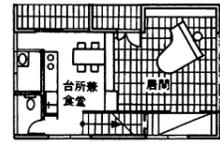


写真 1b 当初の室内の状況



2階平面



1階平面 S=1:250

はじめに

隠れた名建築を幾つも発見されている建築史家の川島智生先生（現京都華頂大学教授）から「道からは見えないが住吉区の住宅街の裏庭に池辺陽氏設計の最小限住宅がある」との話を聞いて、なぜ先生の作品が大阪市内の閑静な住宅街にあるのかとても不思議に思いながら、西田辺の伊藤家に寄せていただいたのは平成十二年の二月の寒い土曜日であったと記憶している。

その後も時々学生とお邪魔させていただく機会に恵まれ、建物を作られたピアノ演奏家伊藤喜久夫人から色々なお話をお聞きするにつれ、ますますこの小さな建物が魅せられてしまった。

### 伊藤家の最小限住宅の構成

写真1はこの最小限住宅に飾られている二〇分の一位の縮尺模型。数年前に建築家の菅正太郎先生（すがアトリエ）のスタッフの方がつくられたらしい。この模型を見ると竣工当初の状況がよくわかる。

写真1aに見るように、南面一階はスライド式の大きなガラス戸で、庭へのアクセスが容易。庭の自然との一体感がすばらしい。二階は書斎。ここにも大きな窓から豊かな光が入る。手前東面の中央には入口、その右手には大きな壁面の立ち上がりがあって、陰影ある力強い造形となっている。だが、何と言っても、大きな片流れ屋根が特徴的。当初はピカピカのアルミニウム葺きだったという。

一方、写真1bは模型の室内。南側一階はピアノの練習スペースで、その上は書斎である。中央には玄関につながる長いホールがあり、その北側は一段床を若きリーダーとして時代に則した新しい造形美を統々と創造されたように思えない。

### 建築家池辺陽・施工監理西澤文隆先生の話

喜久氏によると、池辺先生は設計監理と施工の分離の重要性についてよく話されたそうだが、池辺先生の姿勢は高所から施主の意向を聞きおくといいものでは全く違い、施主の真摯な気持ちを正面から受け止め、同じ目線に立って考えながら、大胆な建築的アイデアを分かりやすく表現するというプロセスを意味するものであったらしい。それだけに、とりわけ施工監理には意を用いられたという。

驚くべきことに、この最小限住宅の監理は坂倉準三建築研究所大阪支所長の西澤文隆先生が引き受けられ、池辺先生は広島でのプロジェクトの行き帰りにしばしば現場に立ち寄られたとのことだが、先生方の設計監理のお話は実に興味深い。例えば写真2は玄関の敷きブロック。矢印の先のブロックには一箇所モルタルが充填されず空洞のままである。これは喜久氏が玄関マットの下の窪みに溜まった雨の水抜きにこの孔を利用したかどうかとの提案に対して、現場監理によくこられていた先生方が確かにその通りとのことになり、早速ブロック工事をその場で自ら指導されたという。そのような決め細やかな工夫はガラス戸の金物デザインをはじめこの建物の様々な箇所に散りばめられている。

池辺陽、西澤文隆といういわば現代建築の巨匠とも言うべき大家の先生方が施主とも工務店の人たちとも常に親身にかつ和やかに接しながら、建築の基本を学

高くしたりリビングの三つに機能分離されており、リビングに接して台所とシャワー室などが北奥に配置されている。現在は流し台や食器棚が撤去され多少仕上げも代わってはいいるが、それ以外は当初のままで、吹き抜けの空間意匠の素晴らしさなど今も変わらない。木造階段も魅力的で、手摺のデザインなどいつも見入ってしまうのである。

最小限住宅というとうとうしても窮屈さを連想するが、この建物にはあてはまらない。仕上げ材も、ホモゲンホルツや、合板など当時のごく普通の工業製品を利用しているが、モダンさと品格どこか茶室の最小空間にも通じる美が感じられるのである。

### 住吉の最小限住宅の経緯

さて、池辺先生がどのような経緯でこの場所に建設されることになったのか？この点については、喜久氏自らが「すまいるん二〇〇四年夏号」「池辺陽もうひとつの最小限住宅—細心の設計と監理で築五〇年を迎える我が住まい」のタイトルで紹介されているので、一読いただければと思うが、戦後復興も徐々に軌道に乗り始めた昭和二十九（一九五四）年、音楽生活に集中できるよう、夫人のお言葉によると、ピアノの傍らで寝られるような「住環境を整えたい」と思い立ち、生家の裏庭に建つコンパクトな音楽アトリエの計画を練り始めたとのこと。

気になる池辺先生との出会いについては次のようなエピソードをお聞きしたように思う。昭和二十九年に一念発起され、自宅本棚にあった住宅集を手にとり多々の実例を調べたところ、最も参考になる小住宅が見つかった。それが池辺先生

ばせていただいたと喜久氏は語る。

そして、演奏家でもある喜久氏は「建築は音楽と共通したところがありますね。音楽のベース（低音）、中音、メロディ（高音）は建築における基礎、躯体、そして意匠と同じと感じました。」との言葉が印象的であった。

住吉の最小限住宅には、今も音楽愛好家や建築家、それに学生などが訪れ、和やかな笑いが絶えない。この小さな建物が多くの人に好かれるのは、クライアアントの思いと優れた建築家の造形、そしてこれを実現した工務店や技能者など多くの人たちのすばらしいハーモニーの賜物によるのだと思う。

### まともにかえて

最近この最小限住宅にはやや傷みが目立つようだ。この隠れた名建築を登録有

の作品だったとのこと。そこで色々調べて池辺先生にお手紙で直接設計を依頼されたという。当時まだ二十代の喜久氏の大胆な行動にこの小住宅にかける熱意が感じられると共に、建築家池辺陽先生の誰に対しても分け隔てのない温かい心遣いが感じられるお話である。

### 初期の池辺作品について

彰国社の「池辺陽再発見 全仕事の足跡から」を見ると、先生の全作品を年代ごとに俯瞰できる。これによるとNO.2は一九五二年、伊藤家の最小限住宅は一九五五年・NO.32である。

年譜によると池辺先生は、昭和十七（一九四二）年に東京帝国大学大学院入学、坂倉建築研究所を経て、同二十四（一九四九）年第二工学部助教授、さらに昭和二十五（一九五〇）年改組に伴って生産技術研究所に所属。建設工学研究所理事を兼務とある。

それにしてもこの時期の作品の多さと内容の豊かさには驚かされる。一九五二年のNO.2から一九五五年のNO.32伊藤家住宅までは長くて四年。この間に三〇余の作品を世に送りだされたということは、一、二ヶ月に一棟のペース。しかも対象は皆手間暇のかかる個人住宅。施主の希望や敷地条件など一つとして同じものがないが、先生は厳しい条件をむしろ逆手にとって、多様な戦後住宅界の

形文化財にさせていただき、徐々に修理の手を加えつつ、個人的にはピカピカのアルミニウム屋根や、池辺先生オリジナルのシステムキッチンなどをもう一度復元し、竣工当時の空間でクラシック演奏に接してみたい。そんなことを思う。



写真 2 玄関の敷きブロックの水抜き孔



写真 3 南面の外観 庇の斜め貼り2階の突出梁構造 ホモゲンホルツの戸袋の仕上げ

# 第6回 建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

## 『建築人』 Gallery 掲載作品 募集中

会報誌『建築人』では、Galleryに掲載する作品を募集しています。  
詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会『建築人』 Gallery 建築作品掲載係まで。

【掲載料】 カラー 2ページ 20万円  
                  カラー 1ページ 10万円  
                  モノクロ 2ページ 10万円  
                  モノクロ 1ページ 5万円  
※モノクロページは住宅作品に限ります

公益社団法人大阪府建築士会では  
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に  
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより  
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として  
建築人賞を実施しています。

- 表彰（設計者に対して）  
建築人賞（賞状と記念盾）  
建築人奨励賞（賞状）  
※建築主・施工者には感謝状授与
- 第6回 対象作品  
「建築人」2013年1月号から2013年12月号まで  
Galleryに掲載された建築作品  
※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの
- 審査方法（2段階審査）  
一次審査 建築人誌面より選定  
二次審査 二次審査資料により選定（現地視察含む）
- 受賞発表  
建築人 2014年7月号誌面（予定）
- 問い合わせ  
公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係  
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ！」  
ガラスアーティスト 三浦啓子作



この住まいは、やがて定年を迎える男性の住処として計画されました。  
施主の希望は、街の喧噪を感じない静かな内部空間で、好きな音楽を聴  
きながら暮らせる住まいでした。  
庭と一体となるリビングをこの建築の中心と考え、自然を様々な形で感  
じる事のできる空間を考えました。  
緩急2つの勾配をもつ片流れの大屋根の下に、プライベートな諸室群を  
潜り込ませ、その隙間を連続する開口としました。リビングからは南面  
する開口部から庭の緑を眺めつつ、振り返ると北側の高窓から青い空を  
仰ぐ事が出来、自然を感じながらゆったりと寛げる空間となりました。

所在地：奈良市帝塚山  
用途：専用住宅  
竣工：2012.12  
構造規模：木造 1階建  
敷地面積：274.55㎡  
建築面積：105.32㎡  
延床面積：92.49㎡  
写真：富田英次

# INFORMATION

# Sponsorship

## 建築士会からのお知らせ

### 平成25年度定時総会・記念講演会・式典・懇親会

公益社団法人移行後最初の定時総会です。ふるってご参加下さい。

日時 5月29日(水) 14:30～19:30
会場 ホテル大阪ベイツワ－4階
大阪市港区弁天1-2-1

スケジュール
総会 14:30～15:30
記念講演会 15:45～16:45
テーマ 「21世紀における建築・都市デザインの展望」
～景観・環境づくりの実践を踏まえて～
講師 門内輝行氏(京都大学教授)
式典・表彰式 17:00～17:45
懇親会 18:00～19:30
会費 6,000円 事前申込要
正会員で総会にご欠席の場合は必ず委任状をご提出下さい。
※詳細は本号同封のご案内をごらんください。

### 平成25年度 建築士定期講習

6/12・7/23 CPD6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成22年度に建築士定期講習を受講された方、及び平成22年度以前に建築士試験に合格後、建築士定期講習を未受講の方は、平成25年度中に必ず受講してください。

■日時・会場
6/12(水) 大阪YMCA国際文化センター
定員300名、会場コード5C-01
7/23(火) 大阪国際会議場
定員600名、会場コード5C-02
※定員に達し次第、受付を終了します。
時間 9:30～17:30(受付9:00～)

■申込締切日
申込受付は郵送のみです
6/12(水)開催分:5/31(金)申込書必着
7/23(火)開催分:6/30(日)申込書必着
※受講票返送のため返信用封筒(長3)に住所・氏名をご記入のうえ、80円切手を貼って同封してください。
■受講料 12,900円(消費税含)
■申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局
※申込書は(公財)建築技術教育普及センターのホームページからダウンロードも可能です。

### 建築士法にもとづく「建築技術講習会」平成25年度 第1回 長寿を目指す住環境設計～医師と建築士の初コラボレーション～

5/24 CPD3単位

医学的知見に基づく健康を守る住環境の重要性や、パッシブ手法と健康の関係などこれからの住宅についてわかりやすく講義します。

日時 5月24日(金) 13:25～16:25
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
大阪市中央区和泉町2-1-11
内容 ・住居内温度環境と健康
・建築から見た健康、省エネ住宅
・パネルディスカッション
定員 150名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円、一般5,000円(テキスト代含)

### 平成25年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》

5/28・6/26・7/26・9/25・10/30・11/27 CPD5単位

H24年に診断マニュアルの大幅な改訂があり最新の診断技術を取得していただく講習会です。
日程 ①5月28日(火) ②6月26日(水)
③7月26日(金) ④9月25日(水)
⑤10月30日(水) ⑥11月27日(水)
時間 11:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館内
定員 各100名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円、会員外9,000円
テキスト代 7,000円(2012年改訂版本造住宅の耐震診断と補強方法)

### 平成25年一級建築士試験案内

一級建築士を受験される大阪府内在住の方が対象です。
学科試験日 7月28日(日)
設計製図試験日 10月13日(日)
■申込書の配布
期間 4月1日(月)～5月13日(月)(土曜日、日曜日、祝日は除く。)
時間 9:30～17:00
(5/13(月)は9:30～16:00)
場所 大阪府建築士会
■受験申込受付
期間 5月9日(木)～5月13日(月)(土、日を含む)
時間 10:00～17:00
場所 大阪府建築士会

### 二級建築士／設計製図 受験対策講習会 実力養成コース

7/14～9/8
直前対策コース 8/25～9/8
模擬テストⅠ・Ⅱ 9/1、9/8

有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務にも直結した指導を安価な受講料で行います。
■実力養成コース(全10回、模擬テスト2回含む)
日程 7月14日(日)、7月15日(祝)、7月21日(日)、7月28日(日)、8月4日(日)、8月11日(日)、8月18日(日)、8月25日(日)、9月1日(日)、9月8日(日)
時間 9:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 50名(申込先着順)
受講料 建築士会会員(準会員)110,000円、一般125,000円

■直前対策コース(全3回、模擬テスト2回含む)
日程 8月25日(日)、9月1日(日)、9月8日(日)
時間 9:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 25名(申込先着順)
受講料 建築士会会員(準会員)35,000円、一般40,000円

■模擬テストⅠ・Ⅱ
日程 Ⅰ:9月1日(日)、Ⅱ:9月8日(日)
時間 9:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 【各回】25名(申込先着順)
受講料 【各回】建築士会会員(準会員)13,000円、一般15,000円

### 建築士の会北摂 活動報告会＋“北摂の民族学”講演会

6/22 CPD2単位

一級建築士／設計製図 受験対策講習会 課題解説＋エスキースコース 8/24
模擬テストⅠ～Ⅱ 9/14、9/21、9/28

有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務にも直結した指導を安価な受講料で行います。
■課題解説＋エスキースコース
日程 8月24日(土)
時間 課題解説9:00～12:00、エスキース13:00～17:00
会場 大阪府建築健保会館
定員 40名(申込先着順)
受講料 建築士会会員10,000円、一般12,000円

■模擬テストⅠ～Ⅲ
日程 Ⅰ:9月14日(土)、Ⅱ:9月21日(土)、Ⅲ:9月28日(土)
時間 製図実習9:00～15:30、図面講評16:30～18:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 【各回】40名(申込先着順)
受講料 【各回】建築士会会員12,000円、一般15,000円

※複数コースを同時にお申込みの場合は割引があります。詳細は本会ホームページをご確認ください。

### 「アメリカの建築とまちを訪ねて」～環境デザインの視点から～

5/18 CPD4単位

元シーザーベリ事務所所員である高原氏から、2010年に渡米し、2年間のアメリカ留学の貴重な体験談をお話しいただきます。
講師 高原浩之氏
(株)HTAデザイン事務所代表取締役
ゲスト 駐大阪・神戸アメリカ総領事館 ヴィザ課担当領事
日時 5月18日(土) 14:00～18:00
(受付13:30～)
会場 キッチンハウス
(地下鉄四ツ橋駅徒歩5分)
会費 1,500円 学生 500円
定員 60名

### 吉野石膏神戸研修センター見学会

5/23 CPD2単位

吉野石膏の製品に関する身近な技術情報の集約拠点である「吉野石膏 神戸研修セン

ター」を見学します。「音響体験施設」は、実際に耳で石膏ボードの壁の遮音性能を体感していただける関西唯一の施設です。環境配慮への提案、耐火・遮音壁の工法展示、施工事例など見てわかる展示を解説付きでご覧いただけます。

日時 5月23日(木)14:30～16:30
会場 吉野石膏神戸研修センター
神戸市中央区港島南町1-6-34
参加費 会員500円 会員外1,000円
定員 100名

### 建築士の会北摂 活動報告会＋“北摂の民族学”講演会

6/22 CPD2単位

日時 6月22日(土) 13:30～16:30
内容 活動報告会 13:30～14:00
講演会 14:30～16:30
懇親会 17:30～19:30
場所 吹田市立市民公益活動センター会議室
吹田市津雲台1-2-1
千里ニュータウンプラザ6階
講演会テーマ

「北摂の民族学－原住民と新住民の暮らしと文化」
講師 中牧弘允氏(吹田市立博物館館長)
定員 50名(地域優先ですが、地域外の方もOK)
参加費 会員500円 会員外1,000円
※懇親会参加者のみ別途4,500円程度必要
※申込者には、1週間前に参加証(地図等詳細)をfaxで送ります。

### 事務局からのお知らせ

ホームページ会員名簿更新について

本会ホームページ掲載の会員名簿の内容を本年5月に更新する予定としております。ホームページへの掲載を希望されない方は、5月17日(金)までに事務局までご連絡をいただきますようお願い申し上げます。
ホームページ会員名簿掲載事項
①氏名 ②建築士級別(正会員のみ)
③CPD登録の有無 ④専攻建築士種別

元シーザーベリ事務所所員である高原氏から、2010年に渡米し、2年間のアメリカ留学の貴重な体験談をお話しいただきます。
講師 高原浩之氏
(株)HTAデザイン事務所代表取締役
ゲスト 駐大阪・神戸アメリカ総領事館 ヴィザ課担当領事

日時 5月18日(土) 14:00～18:00
(受付13:30～)
会場 キッチンハウス
(地下鉄四ツ橋駅徒歩5分)
会費 1,500円 学生 500円
定員 60名

■本会の催し参加申込方法
本会ホームページのWEB申込サイト又は、FAX・郵送の場合は、催し名、参加者名、会員No、勤務先、参加証送付先住所、同電話＆FAX番号(自宅又は勤務先)を明記の上、事務局までお送り下さい。
■問合せ・申込
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

このINFORMATIONページの内容は本会ホームページのトップページにも同時掲載しています。本会ホームページからも予約することができます。
詳細は下記の本会ホームページへアクセスしてください。(建築情報委員会)
【大阪府建築士会ホームページ】
http://www.aba-osakafu.or.jp/

# Administration

### 行政からのお知らせ

### 都市計画道路の区域廃止による建築制限の廃止について(大阪市)

大阪府では、都市計画道路(幹線街路、延長約450km)で事業未着手となっている路線(延長約85km)のうち、24路線、延長約34kmについて平成25年4月19日に区域廃止の告示を行いました。
廃止した路線については、都市計画法第53条による建築の許可を受ける必要が無くなりました(長柄堺線(松虫交差点～遠里小野7丁目付近)を除く)。また、道路の区域廃止にともない、関連する都市計画(用途地域、防火地域など)をあわせて変更しています。
詳細につきましては、下記のHPをご覧ください。
問合せ 大阪市都市計画局計画部都市計画課
Tel.06-6208-7873

http://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/

### 橋本市住宅取得補助金制度

橋本市では定住施策の一環として、平成24年度から3年間に限定した助成事業を創設し、新婚世帯に対し、住宅取得補助金制度を実施しています。平成25年度も引き続き本補助金制度を継続します。

・制度概要
橋本市への若年層の定住を促進し、人口維持・地域の活性化を図るため、新婚世帯が橋本市で住宅を取得された場合に補助金を交付します。(中古物件含む)
・受付期間
平成24年4月2日から平成28年3月31日まで
土曜、日曜、祝日を除く8:30～17:15
対象住宅、対象者、補助金額その他詳細につきましては、橋本市HPをご覧ください
お問い合わせ下さい。
問合せ 橋本市役所企画部企画経営室
Tel.0736-33-1111(代表)
メール kikakhsy@city.hashimoto.lg.jp

### 木造住宅等の除却費を補助(豊中市)

豊中市では、庄内・豊南町地区において、これまで防災性の向上に取り組んできましたが、個々の建物の更新は十分に進んでいないといえません。そのため、古くなった木造住宅等の除却費の補助を平成25年度から平成27年度までの3年間実施します。
問合せ 豊中市都市計画推進部市街地整備課
Tel.06-6858-2427

# Others

### 第12回「関西建築家大賞」募集

主催 (公社)日本建築家協会近畿支部
建築賞分科会
募集期間 3月14日(木)～5月27日(月)
※郵送の場合は当日消印有効
応募資格 (公社)日本建築家協会の正会員
応募作品 2点 ※2003年1月1日～2012年12月末日迄の作品。
(※完成日は検査済証の日付)
応募書類 応募申込書、図面、写真、建築概要書、設計趣旨、確認(計画)通知書及び検査済証の写し
登録費 10,000円
応募方法 応募希望の方は事前に応募申込書をお送り頂き、提出図書類をご提出下さい。応募申込書・提出図書類(一部)は日本建築家協会近畿支部事務局にご請求頂くか支部ホームページよりダウンロードして下さい。
審査建築家 長谷川逸子氏
(長谷川逸子・建築計画工房株)
表彰 大賞1名。該当者がいない場合は、これに準ずる表彰を行うことがあります。
HP http://www.jia.or.jp/kinki
問合せ (公社)日本建築家協会近畿支部
TEL06-6229-3371
E-Mail:jia@bc.wakwak.com
http://www.jia.or.jp/kinki

### 生涯学習講座「近代建築探訪」

日時 5月14日(火) 13:00～
堺市内の旧堺灯台、旧堺紡績会社、旧浜寺町役場、旧制堺中学校同窓会館、旧天王貯水池などの近代建築の懐かしい灯壇の上映。
日時 5月28日(火) 13:00～
古都奈良の景観に配慮した美しく、貴重な近代和風建築・奈良ホテルや、奈良独特の近代建築の懐かしい姿を灯壇で見ます。
会場 業業年金会館(5/14・5/28共)
(地下鉄谷町線谷町6丁目駅下車)
講師 明治建築研究会柴田正己氏(5/14・5/28共)
問合せ 06-6944-0869(澤澤)

### 木材利用促進セミナー2013 CPD2単位

日時 5月23日(木) 13:30～15:30
会場 クレオ大阪東
大阪市城東区鳴野西2-1-21
内容 第一部「大規模木造耐火建築物について」
第二部「耐火技術や立体曲面を用いた木造建築事例紹介」
受講料 無料
問合せ 次世代木質建築協議会
Tel.03-5295-2244

「さびを防ぐ」技術講演会
主催 (一社)日本溶融亜鉛鍍金協会
日本鋳業協会鉛亜鉛需要開発センター
日時 6月20日(木) 13:00～16:30
(開場12:00)
会場 大阪市立天王寺区民センター(ホール)
大阪市天王寺区生玉寺町7-57
定員 300名
参加費 無料
申込締切 6月14日(金)
但し、定員なり次第締切
問合せ・申込 (一社)日本溶融亜鉛鍍金協会
Tel.03-5545-1875
http://www.aen-mekki.or.jp

### 自立循環型住宅設計講習会 温暖地版(入門編)・準寒冷地版(既受講者向け)「大阪開催」

主催 (一財)建築環境・省エネルギー機構
日時 6月26日(水)
温暖地(入門編)9:30～13:30
準寒冷地(既受講者向け)14:30～18:30
会場 大阪国際会議場 801-802会議室
大阪市北区中之島5-3-51
講師 自立循環型住宅開発委員会第3フェーズの研究に係わった、国・公共の研究機関・大学の先生の有識者など。
受講料 温暖地7,000円 準寒冷地10,000円
温暖地+準寒冷地を同日に両方受講の場合15,000円(すべてテキスト代含)
定員 各70名
問合せ・申込 (一財)建築環境・省エネルギー機構
Tel.03-3222-6946

### 第59回アイカ現代建築セミナー「大阪会場」

主催 アイカ現代建築セミナー実行委員会
講師 安藤忠雄氏
テーマ 「生き残りを賭けて」
日時 7月26日(金)18:30～20:30
(開場18:00)
会場 NHK大阪ホール
定員 1,417名
入場料 無料(申し込み制 応募者多数の場合は抽選)
申込締切 6月30日(日)18:00まで
申込方法 下記HPまたはFAXで、氏名、年齢、勤務先住所(学生の方は自宅住所)、勤務先名(学生の方は学校)



特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」江戸時代・宝暦13年(1763) ボストン美術館蔵 Photograph ©2012-2013 Museum of Fine Arts, Boston.

名)、電話番号を明記の上、お申込下さい。申込多数の場合は抽選、入場券の発送をもって通知。(落選の場合のメール配信はなし)
http://www.aica.co.jp/seminar/
または
http://www.kenchiku.co.jp/aica/
Fax.03-3818-1968
問合せ アイカ現代建築セミナー実行委員会事務局(株)建報社内 担当 鷲田章)
Tel.03-3818-1961
メール washida@kenpohsha.co.jp

### 大阪市立美術館 特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」

本展覧会は、東洋美術の殿堂と称されるアメリカのボストン美術館より日本美術の粋を集めたものです。
全巻公開する「吉備大臣入唐絵巻」「平治物語絵巻」、奈良時代の仏画「法華堂根本曼荼羅図」、長谷川等伯や尾形光琳の名品など、かつて海を渡ったまぼろしの国宝とも呼べる日本美術の至宝が、一堂に集舞りするまたとない機会です。また、本展覧会ではボストン美術館がとり組んできた大規模な保存修復の成果を世界に先駆けて公開するものです。
会期 開催中～6月16日(日)
開催時間 9:30～17:00
(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(5/6は開館)、5/7
観覧料 一般1,500円
会場 大阪市立美術館(天王寺公園内)
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
問合せ 大阪市総合コールセンター
なにわコール(年中無休8時～22時)
Tel.06-4301-7285
http://www.boston-nippon.jp/

### 大阪市立東洋陶磁美術館 特別展「森と湖の国 フィンランド・デザイン」

会期 開催中～7月28日(日)
時間 9:30～17:00(入館は開館30分前まで)
休館日 月曜日(5/6、7/15は開館)
5/7、7/16
観覧料 一般1,000円
展示点数 約150件(約400点)
会場 大阪市立東洋陶磁美術館
大阪市北区中之島1-1-26
問合せ ハローダイヤル 050-5542-8600
http://www.moco.or.jp

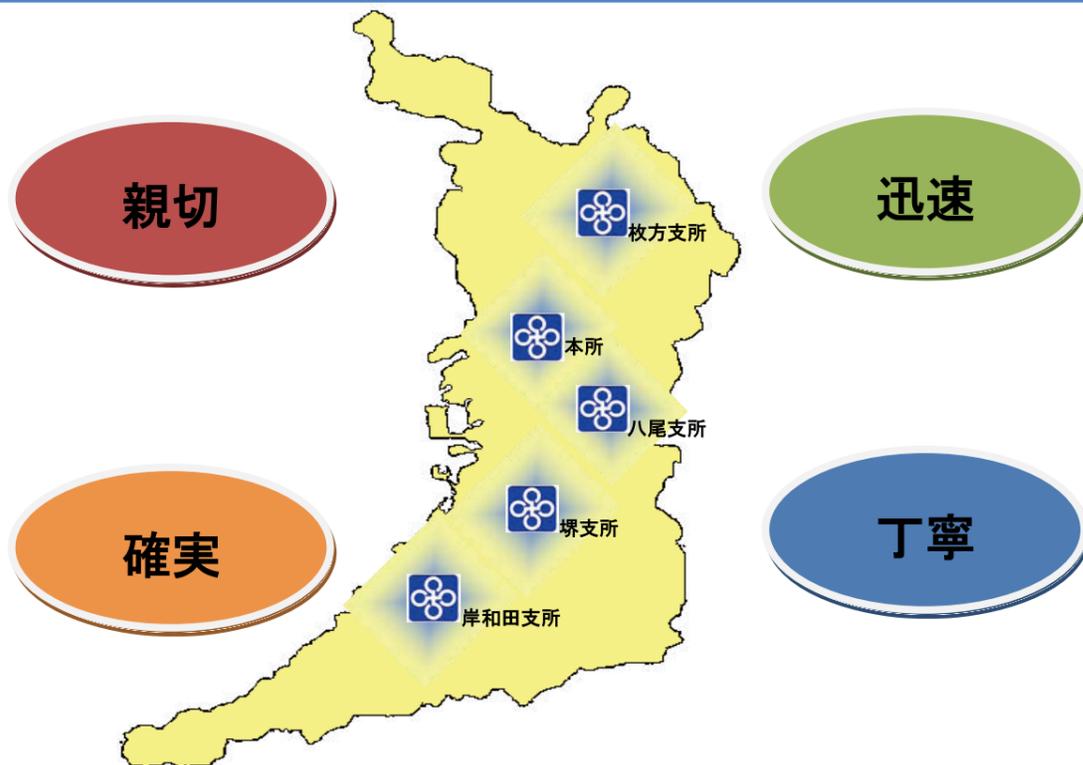


特別展「森と湖の国 フィンランド・デザイン」アルトの花籠9750/3030 K.カッコンネン氏蔵(撮影 ティモ・シュルヤネン)



一般財団法人  
大阪建築防災センター  
建築確認検査機構

好きやねんこの街この家！ 守ろう安全 築こう安心。



【業務範囲】

- ◆ 建築基準法に基づく建築確認と検査
- ◆ フラット 35（適合証明）
- ◆ 住宅瑕疵担保責任保険

（まもりすまい保険・JIO 我が家の保険・ハウスプラスすまい保険・あんしん住宅瑕疵保険）

【本所・支所】

本所(中央)	大阪市中央区谷町 3-1-17 高田屋大手前ビル 2 階	TEL 06-4794-8270
枚方支所	枚方市大垣内町 2-5-7 宮村第 2 ビル 5 階	TEL 072-861-5088
岸和田支所	岸和田市宮本町 27-1 泉州ビル 3 階	TEL 072-429-3660
八尾支所	八尾市本町 1-4-1 YLB タニムビル 3 階	TEL 072-998-0530
堺支所	堺市堺区新町 3-7 STCビル 4 階	TEL 072-238-8282

【住宅性能評価業務】

一般財団法人 大阪住宅センター分室（本所フロア内） TEL 06-4790-9717

**理事会報告** 文責 本会事務局  
日時 四月二十四日(水) 十六時～十七時三十分  
場所 本会会議室  
出席 理事三四名、監事二名  
名誉会長・顧問・相談役五名  
(1) 二十四年度収支決算報告について  
二十五年度三月末の個人会員総数は三〇七二名であり、昨年同月と比較して二六〇名減少した。本年度決算は収支差引約九七〇万円の黒字となり、黒字額は退職手当引当の不足分に充当した。また、新たに地域貢献活動基金(約四三〇万円)を設立した。  
その結果、二十四年度末の正味財産額は昨年同期に比べ約九〇〇万円増加し一四、四二四、五二七円に改善された。  
(2) 二十五年度定時総会の準備について  
本年度の定時総会は、本会が公益社団法人に移行して初めての総会であり、新定款に基づいた議事進行を行う。  
・正会員の委任状を含む総会出席数は現在七三八名であり、今後、総会成立に必要な総正会員の二〇名以上の出席確保に努める。  
・総会では二十四年度の事業報告、財務諸表、監査報告、役員改選の承認及び二十五年度の事業計画、収支予算の報告を行う。なお、役員改選の承認では、二〇名の理事及び一名の監事について決議を受ける。  
(3) 本会の建築士事務所登録について  
建築士法に抵触することなく本会が実施できる業務範囲を拡大し、官公庁等からの公益目的業務受託の拡大を図るため、本年度内に本会の建築士事務所登録を行う。  
(4) 顧問、相談役の委嘱について  
二十五年度は新定款に基づき、顧問五名、相談役五名に対して委嘱を行う。

**建築相談** 二〇二二年の建築相談室  
橋本頼幸  
今月の「建築相談」コーナーは、平成二十四年度の「建築相談室」での相談件数をまとめます。建築相談室では電話相談に加えて、面談相談、現地相談も受け付けております。ここ五年分の変化をととも集計をしたのが図1です。  
平成二十年から二十三年まで年々減少していた相談件数は、二十四年度に増加しました。増減はあるものの五年にわたり年間四百件を超える相談が寄せられています。  
面談相談や現地相談などの有料の相談については、面談相談が減少する一方、現地相談が二年前から増加しています。これらの合計では、二十年度をピークに二十一・二十二年度に減少したものの、二十三年度から増加しています。  
これらは電話相談から相談員が必要に応じて面談相談や現地相談を紹介し、建築士会に来てもらったり、現地に相談員を派遣したりしています。昨今の複雑化したトラブル事例を電話のみで適切に判断し、アドバイスをするのは難しくなっていることから、面談や現地相談に移行するケースが増えていることが伺えます。  
相談分野ごとの推移で特徴的なこととして、住まいづくりの考え方に關する相談が減り、リフォームに關する相談が増えていること、建築コストに關する相談が大幅に増えていることがわかります。社会のニーズが新築からリフォームへ、また、よりお金に關してシビアになっていることが伺えます。一方でシックハウスに關する相談は大幅に減っています。(図1参照)  
建築相談室では、建築士会に設置しているホームページを刷新し、本報告の詳細な分析を公開しております。大阪府建築士会ホームページの右側「建築相談室」をクリックしてください。

表1 過去5年の相談分野ごとの推移

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
1 住まいづくりの考え	31	44	41	53	38
2 リフォーム	51	49	45	35	65
3 メンテナンス	35	48	36	42	42
4 耐震	21	20	14	7	17
5 バリアフリー	2	4	0	6	1
6 高齢者対応	1	2	1	1	2
7 品質・瑕疵担保	154	112	103	118	107
8 紛争・トラブル	163	189	147	146	154
9 防犯	5	0	5	1	3
10 シックハウス	11	2	6	3	2
11 敷地・地盤	27	27	16	28	31
12 建築コスト・融資	14	10	7	5	22
13 その他	64	60	49	43	68

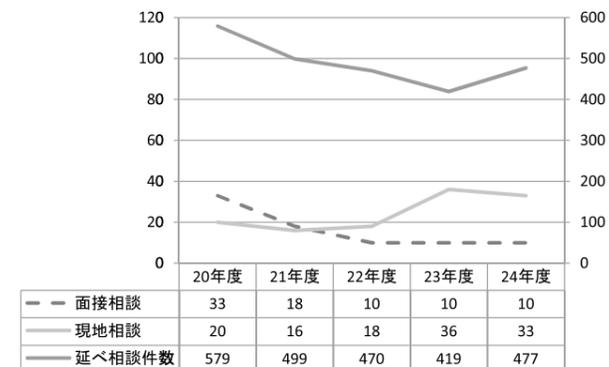


図1 過去5年の相談件数の推移

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野高尚

大林組の始まりは明治二十五年(一八九二年)に大林芳五郎氏が、大阪で土木建築請負業「大林店」を創設したことによる。以来、数多くの大型案件を受注し、業容を全国に拡大していった。その創業の地、大阪本店ビルは、府内で初めての超高層ビル建築であった。建物は自社による設計施工で、竣工は昭和四八年(一九七三年)。規模は地下三階、地上三三階建てで、高さは二二〇mに及ぶ。構造は地下がSRC造で、地上部分は鉄骨造。  
平面計画は長方形でセンターコア形式とし、外壁にPC板によるカーテンウォールを用い、シンプルかつ合理的な美しさが際立つ、分かりやすい形態である。  
また、最新の粋を集めたビルは第二回建築業協会賞(BSC賞)を受賞。その他、大阪建築コンクール及び日本建築学会賞なども受賞している。残念ながら大林組大阪本店は、中之島に建設中のダイビル本館へ移転する。水の都大阪に息づく歴史の「コマ」奇しくもこれが最後の雄姿となるかもしれない。

建築人 5 2013

監修 公益社団法人大阪府建築士会  
建築情報委員会  
編集 建築情報委員会『建築人』編集部  
編集人代表 米井 寛  
編集人 荒木公樹 飯田英二  
筑波幸一郎 中江 哲  
橋本頼幸 牧野高尚  
事務局 山本茂樹 母倉政美  
印刷 中和印刷紙器株式会社



## 南海ビル 高島屋大阪店 来海忠男・幸山真也

なんばの中心に位置する南海ターミナルビルは昭和7年に建設された南海ビル(高島屋等)を筆頭に南海会館ビル、なんばCITY、南海なんば駅、スイスホテル南海大阪から構成される日本有数の巨大複合施設である。

計画当初のターミナルビルは、長年にわたり増改築が繰り返された結果として各々の施設が互いに独立してしまい、駅直結の複合施設としてのポテンシャルを有効に活用することができない施設構造となっていた。計画当初に行われた『なんば(ミナミ)』のイメージ調査によると「わかりにくい」「行きたい店がない」など街の機能充実度がキタと比べて低い、「きたない」「怖い」などの街の治安・環境に対し不安を感じている等、街に対してネガティブな印象が大半であったこともこの状況を裏付けていた。

このプロジェクトは、かつての活気溢れる「なんば」の街を取り戻すべく、その中心に位置する南海ターミナルビルを人々が日常的に使えるアクティブな施設として「再生」させることを目的とした。

バラバラに開発された施設を1つのコンプレックスへと集約し、相互施設の連携強化、集客力強化をはかる事により、かつてのなんばの中心としての求心性を取り戻すこと、そして、80年間の長きにわたって街の人々に愛され続けてきた風景を再生することをめざした。

撮影：Koji Kobayashi 第32回都市景観建築賞入賞作品

### ■プロフィール

来海忠男 (きまち・ただお)  
2000年入社、現在代表取締役社長  
幸山真也 (こうやま・しんや)  
2005年入社、現在執行役員大阪事務所長

### ■建物データ

改修設計：株式会社ブランテック総合  
計画事務所・株式会社竹中  
工務店・株式会社大林組  
改修施工：株式会社大林組・株式会社

銭高組・株式会社竹中工務  
店・南海辰村建設株式会社・  
南海ビルサービス株式会社

所在地：大阪府大阪市中央区難波5-1-60  
用途：事務所、商業施設、ホテル  
竣工：2009年12月  
構造規模：SRC・S・RC造、地上36階地下3階  
敷地面積：34,352㎡  
建築面積：33,508㎡  
延床面積：280,636㎡

